

冷たい春の風

鈴木雅博

青森県・41歳・自営業

あなたに誘われていった、かわいいパブのカウンターで結婚する話を聞いた時、いつかそういう日が来るだろうと思っていたから、素直に祝杯もあげられたけど、そっちのお酒飲んでいい？　と言って僕のグラスを口にしたあなたの横顔を見ていたら、いろんなことが胸に浮かんでいきました。

いっつもそんな目で見るんだから、と言って僕の背中にかくれんぼしたあの日、うちあけ話に何も言えなかったこと、学生のふりして食べた青山学院の日替りランチ、花やしきのジェットコースター、水上遊覧船、チンチン電車に乗って見に行った映画、夜の公園、ふるさとの話、僕はいつだってときめいていた。

結局、最後までひとつのグラスでかわりばんこに飲んじゃったね。かわいいふりして、わりとやるもんだと思ったよ（笑）。駅前の露店でお祝いの花を値切って買ったから、楽しそうに笑っていたあなた。送っていった帰り道が、このままずっと続けばいいなと思ってた。アパートの前であなたが、申し訳なくてと言ってうつむいてしまっ

た時、僕はどうすればよかったの。申し訳なかったのは、いつだって僕の方だったでしょう。まだ冷たい春の風が、心にじんと沁みしました。

青森に帰ったら、僕は働かない父の代わりに働きます。父と兄のこしらえた借金が、だいぶあるんですよ。家事の不得手な母に代わって家事もやらなきゃ。実家に帰れば若旦那なんて言ったけど、ほんとは子どもの頃から家出を考えていたんです（笑）。

でも、今は心が軽い。今日のことは、とって嬉しかった。東京は最高の家出場所でした。あなたを知るまでは、人の基本がやさしさだって、そんなことすら知らなかったのですから。ただ、ありがとう、ありがとう、ありがとう、ありがとうと伝えられた。

では、季節の変わり目、体に気を付けて、風邪などひきませないように。

ほんとうに、お幸せに、ね。さようなら。